

営農技術情報

発行 令和4年3月30日
第2号
たいせつ農業協同組合
営農部 農産販売課
本所 営農センター 57-2357
支所 営農センター 87-4111

春から失敗をしないための適正な浸種と催芽を！

水稻苗の質は、種を播く前の浸漬作業に大きく影響されると言われます。10日間程度の短い期間の作業ですが、これさえ改善すれば良い出来秋に向かって確実なスタートを切ることができます。より良い浸種で出芽が早まり、被覆をすぐにはがすことができ、「焼け」の心配も軽減し、生育揃いも良くなるため、後の作業が楽になります。

① 浸種のポイント

納屋など日の当たらない冷暗所に水槽を置いて浸種すると、すぐに水温が下がり、芽が出ない・揃わないなどのトラブルになりやすいため改善をおすすめします。

【水温】

×10℃以下	○適正「11～12℃」	×13℃以上
水温が低く出芽が揃わない。 7℃以下では著しく不良。	出芽は良好。	水温が高すぎて催芽前に芽が出て不揃いになる。

【日数】

×6日以下	○適正「7～9日間」	×10日以上
日数が短すぎて吸水不足となり出芽が遅れる。	出芽は良好。	発芽力が落ち、死滅する粃が出る。

重要種粃は詰め込みすぎると出芽ムラの原因になります。

② 催芽のポイント

浸種がうまくいけば健全な出芽への準備は整ったのも同然。しかし催芽で失敗しては元も子もありません。発芽の速さは品種や袋によって違いますので、催芽を終了するタイミングは袋ごとによく確認してください。



ありがちな失敗

- 食酢を入れ忘れ、褐条病が出た。
- 陰干ししていた種粃が凍結した。
- 湯が早く冷めて芽の出方が遅れ、不揃いになった。
- 温度計の精度が悪く温度ムラや加温不足になった。

③ 出芽のポイント

浸種や催芽はうまくいっても、置床の環境が悪いと思うように出芽しません。育苗環境を万全に整えて育苗に臨みましょう。

■置床の早期乾燥を。

■シルバーポリのべた掛けのみでは十分な出芽温度を確保できないので、夜間は二重トンネルで保温を。

■播種後から出芽揃いまでは30℃～32℃で。(35℃以上は危険信号)





品質事故を未然に防ぎましょう。



消費者の安全・安心に対する意識は年々高まっており、大きなリスクがある事故として、コンタミ（異品種混入）が挙げられ、これらの事故が万が一発生した場合、産地の信用は大きく失墜する他、商品回収等により多額の損失を伴う可能性があります。

たいせつ地域では、作付品種の増加により、1戸当たりの平均作付品種は3品種となっており、コンタミ事故の未然防止に向けた取組みが大変重要です。

コンタミ事故の要因として、浸種・催芽・播種・田植え作業で“品種の取り違え”により発生する事案が多くなっておりますので、以下の内容を遵守しコンタミ事故を絶対に防止しましょう。

- 種籾ネットの色や紐の色により品種が分かれています。配送から受取った際に“しっかりと品種”を確認しましょう。
- 播種は品種毎に実施し、作業の際は毎日、作業員全員で品種確認を実施しましょう。（手伝いや期間雇用の人員に播種作業を任せただけのために“品種の取り違い”が起きるケースが大変多くなっています。）
- ハウスでの育苗管理は「1棟1品種」を基本とし、やむを得ず2品種以上の管理となる場合は、「明確な境界線」などでしっかり区分しましょう。
- ハウス入り口付近には、育苗品種を「明確に表示」しましょう。

【過去のコンタミによる事故事例】

◆事故概要

全国展開する大手食品メーカーの製品のDNA鑑定によりコンタミが発覚。当該ロット商品は既に量販店等にて販売中であったことから商品回収並びに新聞へお詫び広告を掲載し、結果的には数千万円規模の莫大な産地負担が発生。

◆事故要因

生産者の出荷実績・作付実績を確認したところ1名において計算上の反当り播種量が不自然な点があることが発覚。確認を進めたところ、播種から移植の間に品種の取り違えが起きていたことが判明。

◆再発防止

DNA鑑定の点数拡大、種子購入量と作付面積の整合性確認の義務付けを全道的に実施。

上記事故は、ともに製品流通後の発覚であり大きな産地負担に繋がったものです。当JA管内においても近年クレームを受け、謝罪に出向く事案が数件あります。機械の点検や清掃、作業員を含めた周知徹底など生産者段階での事故防止に努めていただきます様、お願い致します。

農作業事故を未然に防止しましょう!!

いよいよ春作業が本格化しますが、朝夕はまだまだ寒い日が続きます。農作業事故ゼロに向け、計画的な作業と十分な休息をとり、ゆとりを持って作業に当たります。